

準備書説明会における質疑応答の概要

1 開催日時、会場及び来場者数

日 時	会 場	来場者数
2月20日（金）18:30～20:00	誉田公民館 1 階会議室	15名
2月21日（土） 9:30～11:30	誉田公民館 1 階会議室	19名

2 主な質疑応答の概要一覧表

No.	日付	主な質疑対象	質疑	説明の概要
1	2/20	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 準備書において、工事関係車両（ダンプ）の台数や発生土量に対する運行台数の詳細な根拠となる資料（山積表）が掲載されていないため、大気質や騒音等の検証ができない。ホームページ等で早急に公開してほしい。 方法書では「下大和田17号線は使用しない」とされていたが、準備書では調査されているのに予測はされていない。一方で、使用予定の新設道路や131号線の交差点は調査されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 山積表は掲載していないが、ピーク時期を示すグラフは掲載している。審査会で求められれば補足資料として提示する。 下大和田17号線については、現状の結果として示している。県道131号線については、南側の調査結果で北側の接続道路付近の環境も同じであると判断したため追加調査はしていない。接続道路については審査会で変更内容を示し、審査を受けた上で準備書を作成している。
2	2/20	水質、災害	<ul style="list-style-type: none"> 沈砂池の容量はどのような計算で出されたのか。ゲリラ豪雨への対応や、東金有料道路など他地域からの雨水流入も想定されているのか。大雨時に周辺地域（鹿島川と131号線の交差点付近など）が冠水する中で、雨水排水はどのように流していく計画か。 	<ul style="list-style-type: none"> アセスの予測においては、現況の水質（濁り）を悪化させないための目標値として必要な沈砂池容量を設定している。それとは別に防災的（治水）な観点からの基準があり、実際の工事の設計段階で千葉市の基準等に合わせて防災機能も含めた容量を確保するよう設計し、申請等の書類で示すことになる。
3	2/20	事業計画 動物、植物、生態系	<ul style="list-style-type: none"> 開発地域は「生物多様性保全上重要な里地里山」等に選定されており、希少動植物が多数確認されている貴重な自然環境であり、希少な植物のカンアオイ等も確認されている。30by30やネイチャーポジティブといった世界的な自然環境保全の要請がある中で、これだけ貴重な自然環境を所有する民間企業として、それらとの整合性をどのように考えて開発計画を立案したのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域が生物多様性の高い地域であることは承知している。市長意見を踏まえ北側の保全区域を除外し、東側の谷津や南側からの水の流れもできるだけ保全するよう区域を再検討した。また、谷津との連続性を考慮した残置森林の確保や造成後の斜面林の復元等の環境保全措置を実施することで、できる限り影響の回避・低減を図った。以上の措置でどうしても残る影響に対しては、カンアオイ等の移植を実施するとともに、生育状況のモニタリングを実施していく計画である。 自然環境との調和と地域活性化の両立という目的のもと、ご指摘のネイチャーポジティブやOECM等も十分認識しており、民間所有地を活用した生物多様性の保全・回復に繋がるよう事業を進めたいと考えている。

4	2/20	騒音等、廃棄物等	<ul style="list-style-type: none"> ・1日250台の工事車両が頻繁に往来することになるが、周辺には福祉施設や小中学校もある。ドライバーのモラルや事故の危険性に対し、交通安全や教育を具体的にどのように確保・徹底するのか、抽象的ではなく具体的な計画や文書での誓約はあるのか。 ・産業廃棄物について、適正処理の証明はどうするのか。近隣で廃棄物が放置され悪臭を放つ事例もあるため、他所に迷惑をかけない具体的な処理技術や計画、PFAS等の有害物質に関する懸念についても説明してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全については、工事現場での一般的な対応となるが、事前にドライバーへの教育や交通ルールの遵守（歩行者がいる場合は速度を落とす等）について、定例会議や、日々のミーティング等で継続的な周知徹底を図る。 ・産業廃棄物については、受け入れ側と適正に確認の上で契約を結び、法令に基づき適正に処理する。また、PFASのうち、PFOS等については、国内での輸入・製造が原則禁止されているため、本事業で使用されることはない
5	2/20	動物、植物、生態系 事後調査	<ul style="list-style-type: none"> ・事後調査計画で猛禽類として「サンバ」のみが対象と記載されているが、対象地域にはオオタカやツミなどの他の猛禽類も生息・営巣している可能性がある。サンバ以外の猛禽類については調査の対象にするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サンバを事後調査の対象としたのは、営巣地が対象事業実施区域に近く、環境保全措置による低減効果に不確実性があると予測されたためである。実際の猛禽類調査においてはサンバのみを対象とするわけではなく、確認された他の猛禽類も同様に記録する。新たな種の確認等があれば、それらを含めて記録していく計画である。
6	2/21	事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに接続する道路は鹿島川の右岸側と左岸側のどちらを通るのか。また、県道131号に接続する交差点付近のガソリンスタンドに近すぎるのは危険ではないか。中野町への説明会は開催されるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・接続道路は鹿島川右岸側に作られる計画である。ガソリンスタンドとの位置関係については、事前に協議のうえ決定することになると考えている。中野町への説明会は、町内会と相談し新たに開催する予定である。
7	2/21	事業計画 交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ・切土の量が多く残土搬出に伴うダンプカーが1日約350台発生し、県道の交通量が増加する。交通安全の配慮はどうなっているか。なぜそこまで切り取る必要があるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全については運転手の教育やアルコールチェック、交通ルールの遵守を徹底する。既存住民の土地の高さや生活道路を基本に、平坦な企業用地を造成するため切土量が多くなる。
8	2/21	水質 事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・公共下水道へ合流するとあるが、誘致企業から有害物質等の排水が出た場合の対策はどうか。また、公共下水道の容量は足りるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土気周辺の既存公共下水道まで圧送管で接続する計画である。必要な容量を算定し、千葉市下水道局と協議した結果、流下能力は足りると協議している。
9	2/21	事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに設置される市道（進入道路）の予定地域は農業振興地域に指定されていると思うが、解除できる見込みはあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存道路の幅員が狭くアクセス箇所が限られるため新設する計画である。農業振興地域の解除については千葉市と協議中であり、協議の中では必要な条件を満たせば解除可能との結果が出ている。
10	2/21	事業計画	<ul style="list-style-type: none"> ・大木戸浄水場から1日3000m³を供給予定とのことだが、千葉市水道局との協議は済んでいるか。同浄水場は老朽化による更新・縮小計画があり、アセス終了後では手遅れになるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大木戸浄水場とは事前協議を行っており、現状ではタンクに余裕があるため独自に配水管を整備すれば供給可能とのことである。実質的な協議は環境影響評価が終了してからとなる。
11	2/21	動物、植物、生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と調和した開発の具体的なモデルはあるか。良い事例があれば示してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的に特定のモデルを設定している訳ではないが、ホンダ（本田技研工業株式会社）の寄居工場は対象事業実施区域と類似の環境を保全しており、参考にしている。

12	2/21	動物、植物、生態系	<ul style="list-style-type: none"> 希少生物がいるのは谷津田が人の手によって維持されてきたからである。谷津田をそのまま残すだけでは荒地になり、生き物は担保されない。事業に対して反対しているわけではないが、放置せずに人が関わられるような仕組みを担保してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の希少生物の多くは水辺環境（湿地・谷津）とそれを創出する地下水涵養に依存している。また、その環境に人の活動が加わることによって谷津田という二次的自然が成立していることが、各種の生息の維持に重要であると理解している。いただいたご意見を参考に、影響の低減に努めていく。
13	2/21	地下水・湧水	<ul style="list-style-type: none"> 台地を削ることで湧水が減り、谷津田環境がどうなるかわからない。地下水涵養量の変化が大きいが地盤沈下の危険性はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地下水量等の予測は現状の7～8割程度になる。切土エリアでは浸透枿等により極力地下に水を戻す保全措置を検討する。地下水の揚水は行わないため地盤沈下は考えられない。ある程度の谷津環境の機能は保たれると考えている。
14	2/21	動物、植物、生態系	<ul style="list-style-type: none"> 現況の森林を25%以上残す案では不十分であり、せめて50%程度残さないと希少生物がいなくなってしまうのではないか。自然共生サイトに認定される方向を目指してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 開発の事業性や収益性とのバランス、地域活性化や利便性向上の必要性もあり、いただいた意見は今後の検討の参考とするが、現時点で確約はできない。
15	2/21	事業計画	<ul style="list-style-type: none"> なぜ進入道路を中野町側に通すのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業用地としての利便性向上と、開発許可を取得する上で接続する道路の幅員要件を満たすため、一番インターチェンジに近い中野町側が最適との結論になった。
16	2/21	動物、植物、生態系	<ul style="list-style-type: none"> 猛禽類（サシバやオオタカ）への影響予測について、調査地域の200m内で営巣が確認されているとのことであり、工事の影響が小さいという予測は甘いのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 猛禽類の調査は200mに限らず1.5km程度の範囲で行っており、この結果、オオタカ2ペア及びサシバ1ペアの営巣地は200mより離れたところで営巣が確認されている。以上の距離に加えて、営巣地を中心に行動圏解析を実施した結果、影響は小さいと予測している。 一方、サシバ1ペアについては営巣中心域の一部が対象事業実施区域にかかることから、本ペアを対象に工事工程の調整等の環境保全措置を実施し、できる限り影響を低減する計画としている。
17	2/21	事業計画	<ul style="list-style-type: none"> 雇用の創出について、学生や労働者がどう思っているか（ここで働きたいか等）のアンケートなどのエビデンスがあった方がよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 以下、回答はなし（意見として承る）。
18	2/21	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 電波障害や日照障害について、進出企業に「配慮の要請」とあるが、もっと強い条件をつけるべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 法的規制以上の制限は難しいが、企業誘致の際には地元で迷惑がかからないよう条件を提示し、対応できない企業は断る場合もある。
19	2/21	動物、植物、生態系 生活環境	<ul style="list-style-type: none"> トウキョウサンショウウオ、アカハライモリを見たことがないが、どこで確認されたのか教えてほしい。 残土等の山積みのピーク時の状況を公開してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘頂いた種は今回の現地調査（200m範囲内）では確認されておらず、3章に記載されている情報はより広域を対象とした文献調査で確認された情報である。 排出量等のピーク時を示すグラフや予測に用いた建設機械の稼働条件は準備書内に示してあり検証可能である。